
映画で被災地を応援する“シネマエール2016” 熊本支援チャリティ『うつくしいひと』上映会のお知らせ

謹啓

平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、うつくしいひと上映青森実行委員会(共催:合同会社tecoLLC、BLACKBOX)は、映画で被災地を応援する“シネマエール2016”、熊本支援チャリティ『うつくしいひと』上映会を開催することとなりましたのでお知らせいたします。

2016年4月14日に地震が発生し、今なお余震が続く熊本。熊本出身の映画監督行定勲氏が偶然にも地震が起きる前に撮影していた新作『うつくしいひと』を青森にて初上映し、今は訪れることが叶わない場所を映した映画を観ることで、熊本に思いを寄せて頂くためのイベントです。当日募金箱を設置し、来場者から寄せられる支援金は行定監督の事務所セカンドサイトを通じて全額支援窓口に送られます。

報道関係者の皆様におかれましては、告知ならびにご取材を賜りたく、何卒宜しく願いいたします。

謹白

記

被災地を応援する“シネマエール2016”
熊本支援チャリティ『うつくしいひと』上映会

▼日時:
2016年7月10日(日) 11:00～、14:00～(全2回)

▼場所:
BLACKBOX(青森市古川1丁目14-3)

▼入場料:500円
※当日募金箱を設置し、来場者から寄せられる支援金は行定監督の事務所セカンドサイトを通じて全額支援窓口に送られます。



偶然にも、“映画”が故郷の美しさを残していた。 行定勲監督39分の新作、『うつくしいひと』。

くまもと映画プロジェクトによって制作された『うつくしいひと』は、熊本出身の映画監督行定勲氏及び熊本にゆかりのある俳優・著名人や、県内市町村及び地域活性化に取り組む人々が「地方創生版チーム熊本」として連携し、熊本の地域資源を活かし、熊本での生活などの素晴らしさを伝えるための映画です。しかし、4月14日の地震を境に、映画で描かれた熊本の一部は、無惨にもその姿を変えてしまいました。偶然にも、熊本地震が起きる前に撮影された本作は、4月25日新宿テアトルで緊急上映されたとき、皮肉にも地域創生というプロジェクトの趣旨とは違ったところで、注目されることとなりました。

熊本支援チャリティ『うつくしいひと』上映会は、この映画を上映することで、熊本を応援しようというプロジェクトです。熊本には、100年以上の歴史をもつ映画館「Denkikan」があります (<http://www.denkikan.com/index.html>)。『うつくしいひと』の巡回上映は、Denkikan代表の提案がきっかけで実現しました。多くの人に、いまは訪れることがかなわない場所を映した映画を観ていただき、いま、熊本で、日本で起きていることに思いを寄せていただくことができると願っています。

【ストーリー】熊本にロケハンに訪れた映画監督と若い女性の出会い、小さな旅の物語

【出演者】橋本愛、姜尚中、高良健吾、石田えり、米村亮太郎、くまモン

【スタッフ】行定勲(映画監督)、馬場圭介(スタイリスト)、他

【上映時間】39分

【製作】くまもと映画製作実行委員会(熊本市、阿蘇市、菊池市、山都町、有限会社セカンドサイト)

【特別協力】熊本県、熊本朝日放送

【公式サイト】<http://kumamotoeiga.com>





▲橋本愛 (ハシモト・アイ)



▲姜尚中 (カン・サンジュン)



▲地震で亀裂が入り、水漏れが発生した通潤橋



▲土砂崩れなどにより入谷禁止中の菊池溪谷



▲高良健吾 (コウラ・ケンゴ)



▲石田えり (イシダ・エリ)



▲くまモン



▲地震で甚大な被害を受け閉鎖中の熊本城

▼行定勲

1968年熊本県出身。長編第一作『ひまわり』(00)が第5回釜山国際映画祭の国際批評家連盟賞を受賞し、演出力のある新鋭として期待を集める。『GO』(01)では、日本アカデミー賞最優秀監督賞をはじめ国内外の50の賞に輝き、『世界の中心で、愛をさけぶ』(04)が観客動員620万人、興行収入85億円、同年実写映画1位の大ヒットを記録。10年には『パレード』が第60回ベルリン国際映画祭で国際批評家連盟賞を受賞、国内外から支持を得る監督のひとりである。他代表作に『北の零年』(05)、『春の雪』(05)、『クローズド・ノート』(07)、『今度は愛妻家』(10)、『つやのよる』(13)、『円卓』(14)、『真夜中の五分前』(14)など多数。また、劇場映画にとどまらず、「ブエノスアイレス午前零時」(14)、「趣味の部屋」(13・15)、「タンゴ・冬の終わりに」(15)などの舞台演出も手掛け、その功績が認められ2016年1月、毎日芸術賞演劇部門寄託賞の第18回千田是也賞を受賞。



▼シネマエール



映画を届けることで、被災地を応援するプロジェクト「シネマエール東北」。2011年6月にスタートした活動は、岩手・宮城・福島を中心に2016年3月末までの約5年間に620回の上映会を行い、3万人を超える人たちに映画を届けてきました。この度、Denkikan代表の提案を受け、シネマエールは日本各地にある「シネマエール」主催コミュニティシネマセンターの会員館や上映者、映画上映でつながっている仲間たちとともに、熊本支援チャリティ『うつくしいひと』上映会のお手伝いをするようになりました。
公式WEBサイト：<http://cinema-yell-tohoku.com>

▼うつくしいひと上映青森実行委員会

合同会社tecoLLC

地域のあさつてをデザインするべく2008年に設立。山間地域の地域創造プロジェクト「王余魚沢倶楽部」(2011年)、クラブ制りんごブランディング「安寿紅燈籠」(2012年)、コミュニティレストラン「浅めし食堂」(2013年)、IMF・世界銀行年次総会日本政府公式記念品「三つのおきあがり小法師」(2013年)、そして弘前シードル工房「kimori」(2014年)と、手がけたブランディング事業が4年連続、5つのグッドデザイン賞を受賞。ほか、ロハス大賞を受賞したおやさいクレヨン「vegetabo」の商品開発ブランディングディレクションなど。
公式WEBサイト：<http://www.teco-llc.net>



BLACKBOX

青森市民が親しんだ映画館・青森松竹会館が2003年に閉館後、大規模な改築を経て、2013年天才創造拠点BLACK BOXとしてオープン、多種多様なクリエイターの活動拠点として、地域をまきこんだ様々な活動が行われている。これまでに演劇、オペラ、お笑いライブ、学生企画イベント、ディスコ、シンポジウムなど多彩なイベントを開催。
公式WEBサイト：<http://blackbox.padou.jp>